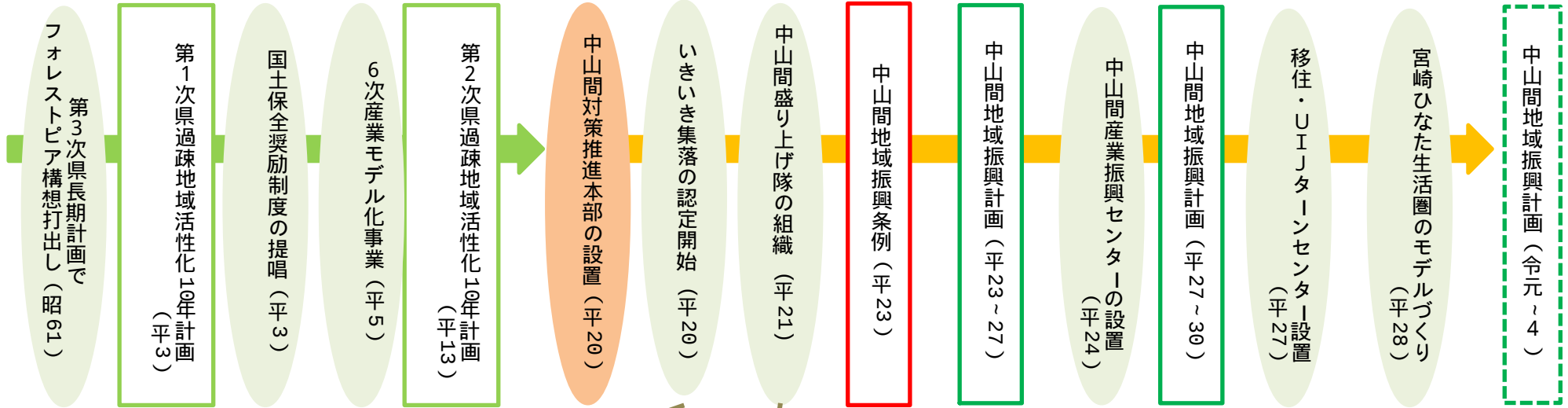


本県の中山間地域対策と
「宮崎ひなた生活圏づくり」について

令和元年5月31日
宮崎県中山間・地域政策課

本県の中山間地域対策の歩み



過疎対策への積極的取組

過疎対策から中山間地域対策へ

人口減少対策の打ち出し

「いきいき集落」の認定

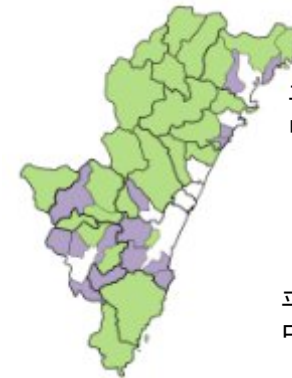
中山間盛り上げ隊の派遣

中山間地域振興条例・計画

活性化に取り組む集落を「いきいき集落」に認定。2018年度末で136集落。認定集落にはのほりの提供、研修交流会や情報紙の発行等を行う。

中山間地域における集落活動を支援するボランティアを登録し、集落からの派遣要請に応じて派遣するもの。

2018年度 60回、延べ410名を派遣



平成23年3月
中山間地域振興条例 制定

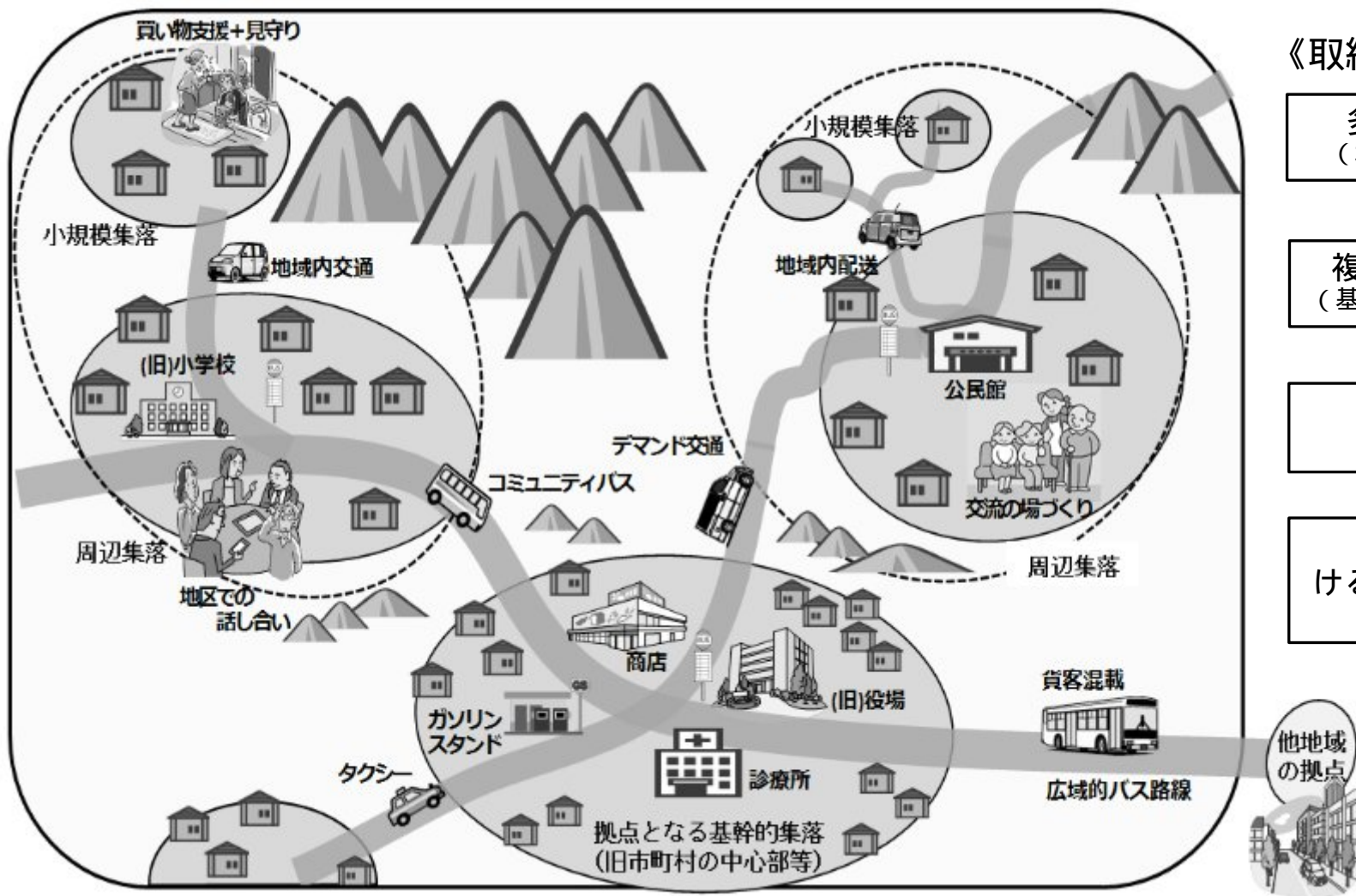
地域振興5法と農業地域類型の中間・山間農業地域を「中山間地域」と定義。

平成23年9月
中山間地域計画の策定

2度目の改定
改定案を本年6月議会に提出予定



宮崎ひなた生活圏づくり（計画素案より）



《取組の4つの柱》

多様な主体の参加・協働
(地域運営組織の形成促進 等)

複数集落のネットワーク化
(基幹的集落を核とした連携・補完)

合わせ技による効率化
(活動分野や業種の相乗り)

安心して住み続けるためのセーフティネットの確保
(医療・介護、消防等)

- 基幹的集落
小売、金融、燃料供給、介護サービス等、日常生活に必要な機能やサービスが集積し、県内行きの複数の集落同士、あるいは圏域の外との結節点となる集落
- 周辺集落
基幹的集落の周辺にあり、小学校区程度の区域を単位として、自治会や公民館等による地域活動が行われている集落
- 小規模集落
周辺集落の中で、地形的に末端にあり、世帯数の減少や高齢化の状況が著しい集落

モデル形成支援

① 都城市庄内地区 住民協働型コミバスの運行

□庄内地区（平成27年国調人口7,436人、3,041世帯）では、平成22年に地区住民や地区内の各種団体が参画した「庄内まちづくり協議会」を設立。

□平成26年3月に庄内地区の公共交通の人口カバー率が市内最低であることが明らかとなり、同年5月に協議会の健康福祉部会を中心に検討が進められることとなる。

□平成28年度に、住民協働によるコミュニティバスの運行に向けて、市の地域公共交通会議で交通事業者や行政機関との協議等を行い、同意を得た上で、住民協働型バス「庄内ふれあい号」の実証運行が決定。

□コミュニティバス（道路運送法第78条第2号の市町村有償運送）の運行を市が協議会に委託。路線バスの運行経路やダイヤなどは、協議会と市と協議の上で設定されており、車両の運転も資格要件を満たす地域住民が担う。

【実証運行の内容】

- ・路線・・・庄内地区公民館を拠点とした4路線（2路線は地区隣接の温泉施設まで運行）
- ・営業日・便数・・・祝祭日を除く月・火・木・金曜日で1日4便
- ・運賃等・・・・・・・・・・会員制 500円/月

□住民協働型バスの実証運行と併せて、地区住民の路線バス利用の促進を図るため、県、市、路線バス会社で連携して、バス活用パンフレットの配布や住民モニター調査を実施。

□庄内ふれあい号の運行によって、公共交通の人口カバー率は、実施前の46.8%から92.1%に向上。実証後も継続的な運行が行われている。



② 西米良村小川地区 貨客混載による宅配システムの構築

□西米良村内で、村の中心部から車で約40分離れた地域。

【H27国調人口】75人（43世帯）

【高齢化率】 60.0%

地区内には、村設の観光施設があり、住民で構成する協議会による運営が行われていた。

□下記の流れで宅配物を運ぶ仕組みを実証。



□ 課題
末端輸送部分のランニングコスト



③ 諸塚村「小さな仕事」マッチングシステムの構築による地域の所得と担い手の確保

諸塚村では、椎茸栽培をはじめとした個人農家や民宿、旅館、飲食店等の「手伝い」のような時間・期間が限定的な仕事の潜在的ニーズと、子育て中の女性の短時間・短期間労働やUIターン者の農作業経験によるスキルアップを結びつけるため、「小さな仕事」をマッチングさせる体制づくりに取り組んだ。

村の概要

- 山間部の村
 - ・人口 1,739人、高齢化率40.6% (H27国調)
 - ・就業人口 970人(第1次産業39.9%、第2次産業16.4%、第3次産業43.5%)
 - ・村の9割以上が山林

事業概要

- 現場の実情に合わせた村独自の求人・求職マッチング体制の構築
 - ・ マッチング体制構築に向けたアンケート、事例調査、ヒアリングの実施
 - ・ 傷害保険の検討、地域内ニーズの掘り起こし、求職者の研修制度の構築
 - ・ 運用体制の整備、マッチングの試験運用
 - ・ 実証事業後、一般社団法人 ハチハチを設立して法人化

特徴的な取組・成果

- 法的課題を知恵と工夫で解決
 - ・ 職業紹介事業の制限や派遣業法等との関係もあり、法的整理が難しいと考えていた中、雇用契約ではなく委託業務契約という形で関係機関と整理し、数年前からの構想を実現
- 血縁関係等で補っていた一時的な労働力需要を潜在する労働力で補う
 - ・ 農林業では血縁筋で一時的な労働力需要をまかなう習慣があるため、村内であっても他人に頼むことに不慣れな状況がある中、将来、血縁筋では人手がまかなえなくなるを見越し村独自のシェアリングエコノミーに取り組む。



マッチングを行う
(一社)ハチハチの森代表



作業風景
(上:穴開け・コマ打ち)
(下:田植え補助)

稼働状況

H31.3
現在

- ① 本格稼働 平成29年9月
- ② 登録件数 [H29.9~H30.3] 求人:10件(うち法人2件) 求職:7名
[H30.4~H31.3] 求人:22件(うち法人5件) 求職:18名(うち大学生10名)
- ③ 求人内容 椎茸コマ打ち・収穫・ほだ木移動 / 田植え / ミニトマト収穫・管理 / お茶のパック詰め / 施設清掃 / 飲食接客 / 調理 等
- ④ マッチング数 [H29.9~H30.3] 累計13件 / [H30.4~H31.3] 累計30件
- ⑤ 課題 ・登録件数の拡大(力仕事に対応できる男手の確保や、短時間・短期間の手伝いを仕事として外注することへの抵抗感の払拭)
・スキルアップ(椎茸の収穫ひとつとってももうまくやらないと商品価値を失う)

④美郷町渡川地区 地域資源を活用した「地域ビジネス」の創出

美郷町渡川地区では、さまざまな年代が連携し、地域資源を活用した渡川ならではの「稼ぐ力」の創出や関係人口の獲得を目指して、地域全体が取り組んでいる。

地区概要

- Uターンの若手から多世代に活性化の機運が伝播
 - ・ 人口 342人、高齢化率48.2%（平成27年国調）
 - ・ 平成23年4月に小学校が廃校
 - ・ 近年、30代のUターン者を中心に近年地域を盛り上げる動き

事業概要

- コーディネーターを招聘し、渡川の資源を生かした地域ビジネスにつなげる
 - ・ 「渡川みらい会議」の設立（平成28年8月）
 - ・ 地域ビジネス講座の開催
 - ・ 売り出していく地域資源の選定・商品開発
 - ・ 渡川の魅力体験イベントの実施や販路開拓、情報発信

特徴的な 取組

- 地域住民みんなで参加し、地域の向かっていく方向性を共有
 - ・ 「渡川みらい会議」を設置し、子どもから高齢者まで多くの地区住民が参加するワークショップを開催。地域の課題や強みを認識するとともに、地域ビジネスの創出手法等の講座を開催。
- 地域で、個人で、「稼ぐ」ことへの意識の高まり
 - ・ 地域ビジネス講座の受講を転機に、高齢者の加工グループが、クラウドファンディングを実施し、活動拡大のための資金作りにチャレンジ。
 - ・ 「どがわの里山学校」を通じて、椎茸パウダーの商品開発を行うとともに、「稼ぐ」ことに対して受け身だった住民が自ら動く姿勢に変化してきた。
- 渡川ファンづくりのための様々な仕掛けを展開
 - ・ 情報紙（どがわ新聞）やPR動画（どがわ物語）等を制作・発信し、渡川の魅力を域外へ積極的に伝えるとともに、住民にとっては、その制作過程を通じて地域の魅力を再認識し、地域への誇りを醸成することにつながった。
- 県の支援事業以外にも主要な構成員が活発な動き
 - ・ 「どがわ里山学校」の継続的な開催（関係人口の創出）
 - ・ 地元産品の域外への販売展開



地区の将来を検討する「渡川みらい会議」



配食から新たに加工品づくりまで
取り組む「渡川マンマ」



地域資源の活用を学ぶ
「どがわの里山学校」

「ひなたまちづくり応援シート」の作成

宮崎中山間ネット

中山間地域の概要

いきいき集落

おでかけスポット

中山間盛り上げ隊

平成31年3月追加

ひなたまちづくり応援シート



シートの作成（平成30年度）

国勢調査（小地域集計）のデータに基づき、小学校区や公民館区等の範囲での将来人口等のシミュレーション機能を有するシステム「ひなたまちづくり応援シート」と、それを活用したワークショップの進行方法等をまとめた「手引き」を作成して「宮崎中山間ネット」において公開予定

- <主な機能>
- 1) 基本分析・将来推計機能
 - 2) 移住受入シミュレーション機能
 - 3) 地域分析機能

地域での活用（令和元年度～）

ダウンロード



- ① 「ひなたまちづくり応援シート」を入手
ネットが接続できる場所で応援シートや手引きをダウンロードで入手
（ダウンロード後はネット接続なくても使用可能）



10年後の地域の人口は...
高齢化率は...

- ② 「ひなたまちづくり応援シート」を活用し、地域でワークショップ実施
応援シートをダウンロードしたPC等を公民館等に持ち込み、住民参加のワークショップで地域の将来の姿や課題等を認識・共有
（ワークショップの進行方法等をまとめた「手引き」の活用により深い議論等を促進）

生活は!?
地域活動は!?

- ③ 住民間での議論を経て地域の将来を守る行動計画を策定

買い物もできて、
地域の人が集まる
場所をつくろう!

隣の地域と連携
して消防団活動を
継続できない?

地域の産業（特徴）
を域外からの移住
につなげられたら...



ご清聴ありがとうございました。